

# 中海・宍道湖水域特産資源管理対策事業

## スズキ生態調査

川島隆寿

スズキは宍道湖七珍のひとつに数えられる海産魚である。宍道湖・中海へは春から秋にかけて回遊してきて、この間、定置網や刺網、釣りによって漁獲される。

今年度から三刀屋内水面分場では中海の漁業振興に寄与するため、スズキの生態調査を実施することとなった。今年度は漁獲の実態の把握と若干の生態調査を行なったので報告する。

### 材料及び方法

漁獲実態調査は比較的資料のそろっている宍道湖漁業協同組合の定置網漁獲資料を用いて、宍道湖における過去6年間の漁獲量を集計した。また中海においては、刺網（通称：ボラ網）による漁獲量等を調査した。

生態調査は宍道湖において稚魚ネット、曳網、投網によりスズキ当歳魚の採捕を行ない、食性調査も併せて実施した。

### 結果及び考察

宍道湖におけるスズキの漁獲量は農林水産統計によると昭和29～35年では17.9～107.9トンであった。しかし、昭和36年以後、農林水産統計ではスズキ漁獲量の記載がない。そこで、定置網によるスズキ漁獲量を集計し、表1に示す。

これによるとスズキの漁獲量は1713kg～13048kgで推移しており、年変動が大きいことがわかる。特に今年度は過去6年間で最高の漁獲があり、スズキの回遊量が多かったことを示唆している。また月別の漁獲量は9～11月で多く、12～3月は漁獲がないか、あってもわずかである。2月には全く漁獲されていないが、3月にはわずかながら漁獲される年がある。これより、海から中海を通じて宍道湖にスズキが回遊するのは3月以後、宍道湖から海へとスズキが降下するのは10月以後でピークは10～11月であると考えられる。

次に、中海でボラ網によって漁獲されたスズキの体長別漁獲尾数を表2に示す。ボラ網とは刺網の一種で、ボラのいる水域を刺網で囲んだ後、水面を竹でたたいて魚を驚かして刺網にかける漁法である。この漁法は中海特有であり、スズキは多数のボラに混ざって漁獲される。

ボラ網が操業された5月28日～11月1日の間に113尾、115kgのスズキが漁獲されている。体長の

表1 宍道湖における定置網のスズキ漁獲量

年	すずき漁獲量(kg)							計
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1985~1986	366	682	1240	138	4	0	0	2430
~1987	781	1286	384	11	23	0	4	2489
~1988	907	1725	1080	320	4	0	0	4036
~1989	428	804	480	1	0	0	0	1713
~1990	1041	964	1005	128	2	0	6	3146
~1991	2059	2690	8002	297	0	0	0	13048

範囲は30~75cm、体重の範囲は0.8~5.3kgであった。体長別の漁獲尾数は、40cm以下58尾、40~50cm27尾、50~60cm19尾、60cm以上9尾であり、40cm以下の小型魚が50%以上を占め、大型になるほど漁獲尾数は減少している。漁獲尾数を月別に見ると9月が最も多く57尾を占め、10月の23尾、6月の13尾と続いていた。

表2 ポラ網で漁獲されたスズキ体長組成

体長(cm)	尾数
30~40	58
~50	27
~60	19
~70	8
~80	1

次に宍道湖におけるスズキ当歳魚の成長を表3に示す。4月20日には稚魚ネットによって体長2.0~2.4cmの稚魚2尾が採集されているので、中海にはさらに早い時期に稚魚が回遊してきている

表3 スズキ当歳魚の成長

調査月日	4月20日	5月22日	7月15日	7月31日	9月25日	10月12日
漁法	稚魚ネット	曳網	投網	投網	曳網	投網
調査尾数	2	9	21	8	1	4
体長範囲(cm)	2.0~2.4	3.0~6.4	8.7~14.6	13.3~16.6	19.5	18.8~22.5
平均体長(cm)	2.2	5.2	12.1	14.8	19.5	21.0

可能性が高い。その後、10月12日には平均体長が21.0cmに成長していた。前述したとおり、スズキが宍道湖に回遊するのは3月～11月と考えられるので、春季に体長2～3cmで回遊してきた稚魚は晩秋に体長20～25cmに成長し海へと下っていくと考えられる。

7月31日に投網によって採集したスズキの胃内容物を表4に示す。これによると体長13.3～16.6cmのサイズではエビ・アミ類が中心を占め、小魚を捕食しているものもある。小魚（魚種不明）を捕食していたのは体長16.1cm、16.3cmと調査個体の中で大型の2尾であつたので、このサイズを境にして魚食性が増していくと考えられる。

表4 スズキの胃内容物

体 長(cm)	胃内容物重量(g)	胃内容物組成
13.3	2.0	アミ多数
16.1	1.6	魚(魚種不明)1
13.5	0.2	アミ多数
14.6	0.3	エビ1
15.1	0.3	エビジャコ2
14.8	0.7	アミ
14.3	0.4	エビ1
16.6	2.4	エビ1, 魚(魚種不明)1

今後の課題としては宍道湖・中海におけるスズキの生活史の把握が急がれる。また、スズキの来遊量は年変動が激しいことが判明したが、変動要因の解明も安定した漁獲のために重要な課題であると思われる。